

ネパール大地震 緊急・復興支援報告書

40^{since 1975}
th
ChildFund
Japan

4月25日、ネパールで巨大な地震が発生し、広い地域にわたって甚大な被害をもたらしました。チャイルド・ファンド・ジャパンは翌日26日には緊急支援の実施を決定し、支援を行ってきました。これまで実施した支援活動について、ご報告します。(報告期間:2015年4月26日~2015年8月31日)

4月25日の地震 ●

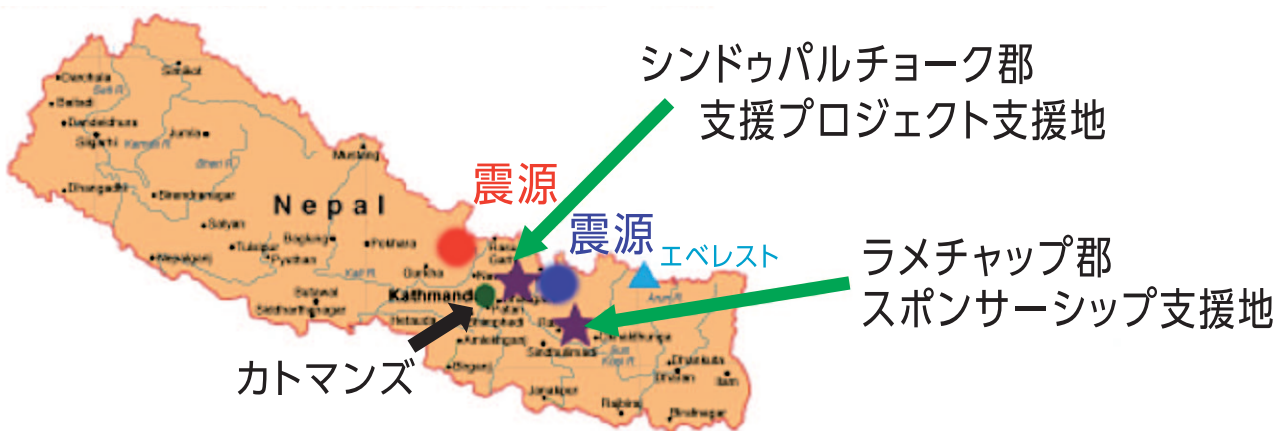
マグニチュード:7.9

震源地:首都カトマンズの北西約80キロメートル

5月12日の地震 ●

マグニチュード:7.3

震源地:首都カトマンズの東約60キロメートル



被害概要

4月25日の地震によって、これまでに死者8,800名以上、倒壊家屋60万棟以上の大きな被害が報告されています。また、復興途上の被災地に追い打ちをかけるように、6月からはモンスーン(雨季)に入り、支援活動にも遅れが出ています。

右: 昨年度、カーペットや机を支援した小学校の校舎(シンドウパルチョーク郡)
下: 全壊したチャイルドの家屋(ラメチャップ郡)



支援地域の状況

チャイルド・ファンド・ジャパンの活動地域でも大きな被害がありました。スポンサーシップ・プログラムを実施しているラメチャップ郡では、家屋の倒壊などの被害がありましたが、支援を受けるチャイルドと家族全員の無事を確認することができました。支援プロジェクトを実施するシンドウパルチョーク郡では家屋などが壊滅的な被害を受けました。約90%の家屋が全壊・半壊の被害を受け、多くの人々が屋外での避難生活を強いられています。

緊急支援開始

チャイルド・ファンド・ジャパンは、5月1日よりシンドウパルチョーク郡で第1弾となる緊急物資の配布を行い、3,179世帯に、各世帯あたり米12kg、豆1.5kg、塩1kgを配布しました。5月1日にパンゲタル村で行った食料配布は、被災した

人々にとっては震災後初めての支援となり、人々は数日ぶりに食料を手にして、子どもに食事を与えることができると、涙を流して喜ぶ人もいました。



物資を受け取るために集まった地域の人々

Photo : Jake Lyell/ChildFund



地震後初めて支援地域を訪れパートナー団体の代表者に会うスタッフ(右)

Photo : Jake Lyell/ChildFund



物資の確認をするスタッフ

Photo : Jake Lyell/ChildFund



住民がボランティアで食料配布を手伝う

Photo : Jake Lyell/ChildFund

再び大地震が発生

5月12日、2度目の大きな地震が起きました。この地震によって支援地域で人的な被害はありませんでしたが、1回目の地震で半壊し、2回目の地震で全壊してしまった家屋も多くありました。



左：物資を受け取った母子

右：物資配布作業を行う地域の人々



チャイルド・ファンド・ジャパンは、5月22日から第2弾となる緊急支援物資の配布を行いました。各世帯に米30kg、豆4kg、塩1kg、油2リットルと、防水シート、グラウンドシートを配布しました。

子どもたちへの支援

5月末からはシンドゥパルチョーク郡でチャイルド・センタード・スペース(CCS)の活動を開始しました。チャイルド・センタード・スペースは、テントなどの形態で設置され、子どもたちの学びと遊びの権利を守り、こころと体の健康を支える場です。精神的なショックを受け、こころに傷を負った子どもたちへのケアにつながる遊びや活動が行われます。具体的なプログラムは、歌を歌ったり、読み聞かせをしたり、絵を描いたり、ゲームをしたり、スポーツをするなどです。

また地震後、家族と一緒に過ごしていた子どもたちに「家族から離れても大丈夫」という気持ちを持たせ、今後学校に通うためのこころの準備をする場所でもあります。チャイルド・ファンドは、チャイルド・センタード・スペースの設置・運営を緊急支援の大切な活動と位置づけています。チャイルド・ファンド・フィリピンからチャイルド・センタード・スペースの専門

家がネパールに派遣され、スタッフとボランティアに研修を行ったのち、活動が開始されました。



ゲームをする子どもたち

Photo : Philip Maher



チャイルド・センタード・スペースに集まる子どもと地域の人々

Photo : Philip Maher

学ぶ環境を整える

今回の地震によりネパール全土で25,000以上の教室が崩壊し、10,000以上の教室も修復が必要な状態となりました。校舎が再建されるまでの間、子どもたちの学習の場を確保するため、チャイルド・ファンド・ジャパンは6月初旬より仮設教室(テンポラリー・ラーニング・スペース:TLS)の活動を開始しました。仮設教室は、倒壊してしまったり、壁にヒビが入ったりして倒壊の恐れがあるため使用できなくなってしまった校舎の代わりとなる、簡易的な教室です。

シンドゥパルチョーク郡、ラメチャップ郡合わせて5,800人の子どもたちが学校に戻れるよう、8月までに6カ村の32の学校に60の仮設教室の建設を支援しました。また今後は、仮設教室に加えて、学校敷地内に飲料水設備やトイレの設置も行う予定です。



完成した仮設教室



仮設教室での授業の様子

7月からの約3週間の夏休みのあと、8月前半から2学期が始まり、授業が再開されました。子どもたちが学校に戻る時期に合わせて、チャイルド・ファンド・ジャパンでは、「バック・トゥ・スクール(学校に戻ろう)キャンペーン」を開始、その一



学用品セットを受け取った子どもたち

つとして学用品セットの配布を行いました。セットの中には、通学用バッグ1個、ノート10冊、ボールペン14本、消しゴム6個、制服などが入っています。また、冬の季節が近づく9月にはセーターが配られる予定です。

子どもの安全を守るために

さらに、今後起こりうる災害に備えるために、子どもの保護や災害リスク削減への活動も行っています。7月24日から3日間、シンドウパルチョーク郡とラメチャップ郡で活動するスタッフをカトマンズに招き、研修が行われました。研修の目的は、学校での災害リスク削減と子どものケアについて、学校の教員に研修を行うためのトレーナーを養成することです。夏

休み期間には、教員を対象とした2日間のトレーニングが行われ、夏休み明けの仮設教室が子どもたちを安全に守ることができる場となるよう、地震のトラウマを持つ子どもへの心のケアも含めた研修が行われました。また、「緊急時における教育」のマニュアル275冊を、45校で配布しました。



トレーナー養成研修を行う講師



教員対象の研修の様子

国内外の多くの方々から、温かいご支援、ご寄付を送っていただきました。
誠にありがとうございます。チャイルド・ファンド・ジャパンは、
今後もネパール大地震への復興支援を継続しておこないます。



〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長／高田和彦 事務局長／和山正秀

TEL.03-3399-8123 FAX.03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp
URL: http://www.childfund.or.jp/

すべての子どもに開かれた未来を